

う。大担に、「色」にとりくんでいくことによって、今後の子どもの生活に、どんな動きが見られるか、まだ未定であるが、全員協力して、幼児の将来の豊かな色彩生活の一助になりたいと願っている。

(大阪学芸大学付属幼稚園)

私の園の研究

中谷 久子

「私の園の研究」といって、特別発表するような変わった事は何もして居ないが、日々の生活の中で具体的な問題をとらえては研究を進めている。尤も平凡な研究かも知れないが、一日一日を研究の場とし、瞬間に起る出来事一つ一つをその研究の対象として楽しい張合のある生活を送っている。

兎角、私共が心を合わせて努力している

事は、自己改造の問題である。精神的な解放である。

「のびのびとした子供を育てる。」

これが我が園のモットーであるが、それには先ず幼児一人一人の精神的な解放をすることが、何よりも先決問題となるであろう。早く幼児達の余分な緊張感を去りいろんなコンプレックスを無くして、自分の思うことが素直に語るせよう。感じたことがすぐに表現出来るようにすることである。

それには先ず先生自身の精神を解放すること、これがその前提となるべきである。

先生自身がかたい、気持でどうして幼児をのびのびとさせることが出来よう。教師と言う意識を持ち過ぎると、どうしても指導が命令的、指示的になり、幼児の自発活動を妨げる結果となる。それよりも教師がもっと人間的になり教師と言う観念を捨てて幼児のよりよき理解者、幼児から言えばよりよき遊び友達と言う感じになること。これがすべての指導の根本となる問題だと思おうのである。

幼児と先生にこの関係がうまく成立した

ならば、すべての指導は非常に容易になるのである。

例えば、

1、環境さえ適当に整えて置くと、遊びは積極的、能動的になり発展性をもつてくる。

2、自己をよく現わすので個性がしっかり掴めるからガイダンスが仕易い。

3、表現活動がスムーズになる。つまり絵もよくなり、リズムに於ける自由表現も苦勞なく出来はじめる。

私共は入園当初よりこのことを一生懸命導いて来た。一人の幼児をおろそかにすることなく、早く心につながりをもつてやること、

そうするとはじめは黙って遊にも参加せず、唯傍観していた幼児も、現在では喜々として活動をはじめ、集団の前で大きな声で歌もうたえる迄に精神が解放されている。

こうして一人一人が安定感をもち、自由に活動をはじめると生活は活き活きとし、私共はうっかりすることが出来なくなるの

である。遊びから眼を離すことなく、暖い心で見守ることを忘れてはいけない。

見方によって、「幼児の動きは非常に芸術的である」と嬉しくなることさえある。

確かに幼児そのものは創造的なものである。唯過去の生活に於て大人の干渉や抑圧が大きかった為、自己の本来の姿を見失って居るに過ぎないのである。

だからその干渉や抑圧を取除くことにより、子供を子供本来の姿に還してやることこれが望ましいのである。又私共は子供を余りにも小さく見過ぎては居なかつたか。

大人の眼から子供を眺めて、保護し、鄭重に取扱ひ過ぎはしなかつたか。

子供も一個の人間として、その人格を認め尊重して、対等に話しかけると、案外、独立心をもっているものである。必要に應じては、よりよき相談相手となつてやること、これさえ忘れないで早く精神的に独立させること。

そうすれば自分を信頼して、行動も明確になり、それぞれの個性を随分に發揮しはじめる。この態度が習慣になつた現在では

出来ないことはないといつていい位、日常生活すべてを自分達の手でできるようになつている。

しかしこの過程に於て、いろいろの問題となるものが起つたのである。

それは精神的な解放を目ざして行動をはじめると、日本の家庭に於て強い抑圧から解放された反動のせい、一時は非常に乱暴になり、集団のきまりが守れなかつたり人に迷惑なことを平気でやるような子供も見受けられ、その指導にとても苦勞したのである。

つまり、創造性を養う為の前提となる精神的な解放をした場合のしつつけの問題。これに非常に頭を悩まされ、今年度の研究はこの点に焦点をしばつた。

「望ましい誉め方と叱り方」
「抑圧を感じさせないしつつけの仕方」
「しつつけの根本線をどこに置くべきか」等というろんな問題を考へて真剣に取組みその解決へと一層の努力を続けている。それにより聊かでも解決を得たと思われることは、

1、一人一人のいい点を見つつけ、小さなこ

ども認めてやることから、話し合ひをはじめ、内向的な子供程よく接近して激励してやる必要がある。

2、いい事をした時、いい所は適当に賞めて自信をつけてやること、

3、叱り方はむずかしい。個人の性格とかその場合によつても大分違つてくる。

しかしその根底に深い愛情のあることを忘れてはならない。又個人を責めるのではなくて、やつた行動に対して叱ること。

4、子供が納得する問題(原因)をとらえて叱ること。皮肉を言わず、あつさり叱つてすぐに和睦をすることは非常な効果をもたらしした。

5、しつつけの根本線は

○生命に危険を及ぼすこと、
○他人に迷惑をかけること、

この点は禁止することがある。それから健康的な良習慣は何はともあれ、しつけねばならない。

他のことは、あまり束縛しないでいいと言ふのが現在迄の研究の結果、

割出された躰の根本線である。

6、先生と子供とが、いい関係(お友達のような感情であり乍ら敬愛されているならば)を保っているならば時に叱ることがあっても悪影響はない。

7、衛生的な良習慣や、日常的な生活上の良習慣は、進んで出来るよう、先生も協力してしつける。

大体以上のことが、結論として言い得るのである。次に最近の幼児の様子、或一日の日記のページをめくってみよう。

十二月二十二日(水曜日)

今日は私が遊戯室で他の組々の指導をすることになっていたので自分の組が見られなかった。そこで私はこんな事を考えていた。遊びをいい加減で片付けてO先生にお願いしよう。

ところがお部屋に入ってみると、積木でトナカイをつくりその上に一人の子供が乗っている。向うの方ではI君達がくじ引きのようなものを作って楽しみに遊んでいる最中。これを片附させるのは可

愛そうだと思つたが私がここに居てやる訳には行かない。

そこで子供達に尋ねてみた。「先生はこれから他の組さんとクリスマスのお遊びをしなければならぬだけではないですか。あなた方をどうしましょう。お片附して

O先生に遊んで戴きましようか?」すると子供達「チエツ!先生今面白いことやのに、僕等で遊んどくわ」驚いたが重ねて尋ねた。「先生は居ないのよ、大丈夫?遊んだ後放つて置いては駄目よ、

お片附自分達で出来るの?」すると子供達、「大丈夫よ先生、きれーいに片附けとくから」と自信満々。「でももしけんかしたら先生居なかつたら困るでしょう。」大丈夫よ、僕が止めて上げるから。」とI君自分の腕をさすって見せる。

本当かしら、心配だなーと思つたが呼びに来られたので、O先生にとに角残る子供をお願して遊戯室に行った。時々思ひ出してはとんで行つて見たい気持ちになり乍ら、先ず責任丈果してお部屋に戻つたのが約束の時間を大分過ぎていた。

さぞ待つていただろうと思われる子供の姿は見えず、まあお部屋はきれいに片附けられている。玩具の一つ一つも丁寧に元の場所に整頓されている。そして床はちり一つなく帚で掃かれ、椅子もきれいに並べてある。

そして子供達はO先生のお部屋で静かにお話を聞いていた。その時の嬉しかったこと、何に感謝していいか分らないが本当に心から有難いことだと思つた。

(後から聞けば、お片附は子供達で出来たのだ、と言うこともその嬉しさを増した) (神戸市立権幼稚園)

私の組の研究

秋田 好枝

「保育者は、自己修養を一日もゆるがせ